

道徳だより 第5学年

グッド * ハート

Good Heart

木津川市立棚倉小学校 平成29年10月22日

本校では、道徳教育を重点的に研究しています。このお便りでは、各学年で取り組んでいる取組や授業の様子をお知らせしていきます。学校での子どもの様子を知らせてもらおうと共に、お家での話題のきっかけにしてみたいと思います。

「ぼくは伴走者」

5年生では、「友情」について考える学習をしました。

車いすの友人ひろしの希望でマラソン大会の伴走者になった「ぼく」は、大会までの間、ひろしとともに熱心に練習を重ねてきました。しかし大会当日、いよいよゴール手前というところで、ひろしの車いすは前に進めなくなってしまいます。血が滲んだひろしの手を見て車いすに手を伸ばそうとした「ぼく」に、ひろしは「ぼくは完走したい。」と強く主張します。ずるずると落ちてくる車いすを前に、車いす押すべきか押さないべきか葛藤する「ぼく」。その姿から真の友情について考え、相手のことを一生懸命考えることの大切さ、様々な形の友情に気付くことができました。



○車いすを押すべき

- ・これ以上ひろしにつらい思いをさせたくない。
- ・友だちとして、ひろしの安全が一番大切。
- ・けがをしたら責任がとれない。
- ・ルール上は失格になっても、2人の中では「完走」だ。



○車いすを押さないべき

- ・ひろし本人が「完走したい。」と言っている。
- ・今まで練習してきたことがむだになってしまう。
- ・ひろしの気持ちが一番大切。
- ・ひろしの決断に口出しするべきではない。

〈児童の感想より〉

友情は、助け合いだと思っていたけれど、この場合はどちらが友情だろうと思いました。本人が言っているならその通りにしてあげたいけれど、けがをすることを考えたら助けてあげたいし、なやみました。

ぼくは、押しても押さなくてもどちらも友情だと思います。あぶないと思って押すのも友達のことを思ってのことだし、目標を達成させるために押さないというやさしさもあるので、どちらも友情だと思います。

友情は、「信らい」や「きずな」と思っていたことがより深まりました。みんなのことを考えるのも大事だけど、一人の考えを大切にすることや、助け合ったりすることによって友情が強くなると思います。